

明智光秀ヒストリー

NHKの大河ドラマ「麒麟がくる」がもうすぐ放送開始となります。これまで、広報やまがたでも、光秀と市の関わりについて、お伝えしてきましたが、今回は一般的な光秀のヒストリーについて年表を使って紹介します。この機会にもう一度光秀のことを振り返ってみてはいかがでしょうか。

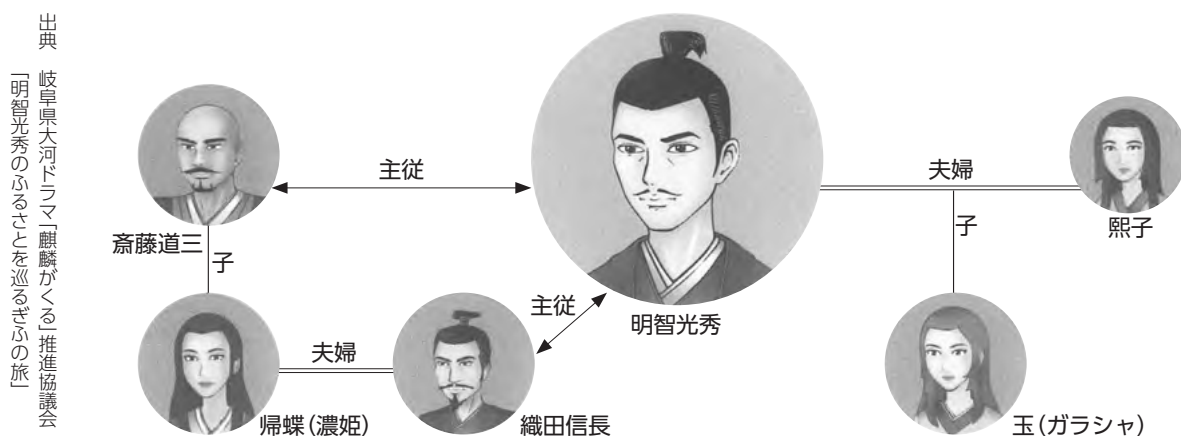
企画財政課 TEL22-6825

1582年(天正10年)	55歳	本能寺の変を起こす。山崎の戦いで敗死し、坂本城落城。
1581年(天正9年)	54歳	京都で行われたパレード「京都馬揃え」で、それまでの功績を認められ、序列3番目に並ぶ。光秀父子が細川父子の招きで丹後の天橋立にて遊び、親睦を深める。妹の妻木が没する。
1580年(天正8年)	53歳	丹波一国を拝領。
1579年(天正7年)	52歳	丹波と丹後の平定を完了させる。
1578年(天正6年)	51歳	娘・玉(後のガラシャ)が細川忠興に嫁す。
1576年(天正4年)	49歳	妻・熙子が病死。丹波攻めの拠点・亀山城の築城を開始。
1575年(天正3年)	48歳	朝廷より「惟任」姓と「日向守」を賜る。丹波攻めを信長から命ぜられる。
1571年(元龜2年)	44歳	光秀が中心となり比叡山延暦寺攻めを行う。近江志賀郡を拝領し、初めての城造り、坂本城の築城を開始。義昭との主従関係を解消。
1570年(永禄13年/元龜元年)	43歳	近江・姉川合戦や志賀の陣で功を挙げ、出世の道に乗る。
1568年(永禄11年)	41歳	足利義昭の足輕衆として臣従。義昭が越前一乗谷から美濃岐阜へ移った後、信長が義昭を奉じて上洛。
1556年(弘治2年)	29歳	斎藤道三が斎藤義龍と争った長良川合戦で道三側に付いた光秀。道三が敗死すると、明智城も攻め落とされ、越前へ逃れる。
1528年(大永8年/享禄元年)	1歳	美濃国(現在の岐阜県南部)にて誕生。 ※岐阜県内の生誕地については諸説あります。

空白の時

※年号下の年齢は1528年(享禄元年)誕生説をとった場合の推定年齢です。明智光秀の生誕年月日には諸説あります。

人物相関図





山県に伝わる もう一つの明智光秀ヒストリー

4ページでお伝えした明智光秀ヒストリーは、一般的な光秀の生涯です。しかし、山県市の中洞地区には、代々大切に受け継がれてきた、光秀にまつわる伝承が残っています。今回は、明智光秀供養祭を通して、山県に伝わるもう一つの光秀の物語にスポットを当てます。

岡まちづくり・企業支援課 TEL22-6831

岡企画財政課 TEL22-6825



桔梗塚の前で説明を受けるツアー参加者

実際にこの地には、光秀のうぶ湯をくんだされる井戸跡や光秀の墓と伝わる桔梗塚があります。

中洞地区には、こんな伝承が残っています。

12月1日、中洞地区の白山神社で明智光秀の供養祭が行われました。また、当日は、光秀の末裔とされる荒深智成さんがガイドを務められた、まち歩きツアーも開催されました。

伝承を大切に守り続けてきた荒深家の人たちは光秀を思い、現在でも4月と12月の年2回供養祭を行っています。

今回ツアーに参加した人は「今まで知らなかった光秀の話が聞けてとても興味深かった。伝承が大切に守られていることに感激した」と話しています。



白山神社の境内では、荒深家の人たちによって祝詞が上げられた



光秀や母親のものと伝わる位牌

ツアーを案内した光秀の末裔とされる荒深智成さんは「光秀に注目が集まる中で、自分たちが守ってきた伝承をしっかりと広めていきたい。荒深という名字に誇りを持って、多くの人に広めていくことが自分たちの使命。これからも大切にしていきたい」と話しました。



この日がガイドデビューとなった荒深智成さん

山県に伝わるもう一つの光秀の物語。この物語は、伝承を大切に守り続けてきた人々のおかげで、こうして注目を浴びる日を迎えました。NHKの大河ドラマ「麒麟がくる」をきっかけに、もう一つの物語にも注目してみたいかがでしょうか。

